

乳に関わる仕事をして40年近く チーズはまだまだ伝えることが多い



ヨーロッパ研修で



数々の賞状がかかる東京支店の応接間で

今回は大阪に本社を置く世界チーズ商会株式会社の東京支店長である香川勝取締役を訪ねた。

応接室にはシュヴァリエのほか、色々な賞状が飾られている。文化の香りがする。

香川さんのインタビューを始めると、開口一番、「チーズの価格を値上げしていかなければならない」と、現在の大変な市場状況の話題に。(これはシュヴァリエの仲間にも確実に影響するお話なので、今回特別に紙上公開。)

香川さんによると、昨年春から世界的異常気象が乳製品輸出国に影響を与え、乳製品の国際価格の高騰と物量が不足している状況とのこと。さらにアベノミクスで円安が進行し、輸入業者としては大変な年のスタートとなっている。このまま中国や中東・アフリカなどの乳

製品需要が拡大して牛乳が足りなくなれば、チーズには回らなくなるという構図である。価格の上昇あり、品薄あり、商売としては大変厳しい。

香川さんは北海道で生まれ、大学卒業後は北海道乳業に勤めた。乳製品が大好きで乳業メーカーで業務用の営業を5年間したという。縁があって世界チーズ商会の札幌営業所に転職し、それから20年間にわたり輸入チーズの販売を行った。当時はシュレッドや粉チーズの引き合いが多くて、フランスのナチュラルチーズなどの高級チーズの開拓は大変厳しい状況が続いたという。

ところで、香川さんが転職するきっかけになったのは「シューブレム」。「これを食べたとき、

香川 勝 [かがわまさる]

世界チーズ商会株式会社 取締役東京支店長

1954年7月15日札幌生まれ

1977年北海道乳業株式会社 札幌支店入社

1982年世界チーズ商会株式会社 札幌店

1993年パチュラー・オブ・チーズ

2002年より世界チーズ商会東京支店長。現在に至る(2006年シュヴァリエ叙任)

バターのようなチーズのような、今までのチーズのイメージを越える一品だったのです。このようなチーズの美味しさを追い求めているうちに、あっという間に年をとっていました(笑)。

この商売をしていても、まだまだチーズのことが理解されていない。「現在の価格の問題はありますが、まだまだ売れると思うし、売っていかなければならないと思ってます」と世界チーズ商会の東京支店長として大市場を開拓している香川さんにとって、さらなる市場拡大の可能性には大変なエネルギーを感じる。

毎月、勝どき橋脇にある倉庫ではガレージセールも開催されている。シュヴァリエの皆様もたまにはお出掛けしてみてもは。ランチはもちろん、チーズ入りもんじゃ焼きかな?